

取組事例

朝型の働き方 所定外労働削減 年休取得促進 多様な正社員 (テレワーク)

Eat Well, Live Well.
AJINOMOTO.

企業名：味の素株式会社	所在地：東京都中央区
社員数：3,484名	業種：製造業

取組の目的：

【味の素グループ ワーク・ライフ・バランス (WLB) ビジョン】

一人ひとりの成長と企業の継続的な発展を通じて、企業を構成するすべての従業員の豊かで実りある人生の実現と、社会の発展に貢献します。

取組の概要：

〈現在の取組〉

○トップメッセージ

WLBビジョンの具現化に向け、労使共同で「WLB向上プロジェクト」を立ち上げ、働く環境・働き方の見直しや生産性向上の取組みを進めていく。

○職場主体のWLB向上の取組み推進

- ・ 3つの「味の素(株)従業員が目指す姿」を策定し、職場主体の取組みを推進。

〈目指す姿〉

- ・ 自分自身の働き方に満足している
 - ・ 高い生産性を実現している
 - ・ 社会人として自立し、ライフプランの実現に向けて取り組んでいる
- ・ 各職場で期初にWLBについて議論し、「WLB取組み計画表」を作成。計画表に基づき取組みを進め、年度末にレビュー及び次年度の計画を策定。
 - ・ 職場内でライフプランの共有等を行う「相互理解促進ワークショップ」を実施。

○働き方改革

【平成26年度の取組み】(「Work@A～味の素流『働き方改革』～」)

〈基本方針〉

仕事と時間の見える化を進め、決めた時間でやりきる仕事を宣言し、時間と場所を選択することで生産性向上を図る

- ・ 「在宅勤務などの制度検討・仕組みづくり」、「ICTを活用した業務効率化」、「生産性向上を適切に評価するために評価制度の一部改定」を実施
- ・ 新制度として、「スーパーフレックスタイム(コアタイム廃止)」、「時間単位有給休暇」、「在宅勤務制度」を導入
- ・ ICTを活用した業務効率化として、「WEBカメラ・スケジューラーの活用」、「VDI(仮想デスクトップ)の導入」、「会議室のシステム化」等を推進。業務の見える化、出張時間・旅費の削減にも繋がっている。

【平成 27 年度の取組み】（「時間生産性」向上の取組み）

＜基本方針＞

～より良い仕事を効率良く、そして、より充実した生活の実現へ～

男性中心の残業を前提とした働き方を変えていくために、経営、基幹職が先頭に立ち全職場で「働き方改革」を加速させる。

①全社の数値目標を設定

- ・ 全社平均で総実労働時間－20 時間、有給休暇取得日数 16 日を目標化
- ・ 基幹職（管理職）、一般職共に全社員有給休暇 10 日以上取得を目標化

②全職場の取組み推進

- ・ 全組織にて総実労働時間・有給休暇取得日数の目標値と具体的取組みの策定

③制度、仕組みの導入

- ・ 最終退館時刻前倒し（本社 21→20 時）、朝型勤務者へ朝食提供（早朝無料化）
- ・ 夏期に有給休暇の計画的付与（3 日間）、通年で有給休暇取得推奨日を設定
- ・ 「働き方計画表」（自身の労働時間等を計画、振り返りができるツール）活用し、「労働時間への感度」と「休暇取得への意識」の向上を推進

＜今後の取組＞

○ダイバーシティ & WLB の推進

人財の属性や価値観の多様化、環境の変化を踏まえ、ダイバーシティ推進が競争力強化に不可欠と考え、新たに「ダイバーシティ & WLB ビジョン」を策定する。

○女性活躍推進

ダイバーシティ推進の中で中心となる女性活躍を加速させるために、「味の素ウーマンズカウンスル」を設立し、制度・仕組みの導入や意識改革の推進を行う。

○「働き方改革」の加速

「ダイバーシティ & WLB」の実現に向け、仕事と生活の両立支援、「時間生産性」の向上、イノベーションを生み出す組織作り、等に取り組む。

現状とこれまでの取組の効果：

○WLB 向上の取組み全体

- ・ 就労（対 07 年）：労働時間 1996 時間（-20 時間）、有休取得日数 15.4 日（+1 日）
- ・ 従業員意識調査：「仕事のやりがい」「職場環境」「生産性向上」等の Yes 率が向上
- ・ 取組み計画表：全ての職場で自職場の WLB 向上に関する取組み計画表を作成

○「働き方改革」

- ・ 「スーパーフレックスタイム」、「時間単位有休」により、柔軟な働き方を実現
- ・ 「在宅勤務」により、通勤時間削減、集中した業務遂行等により生産性が向上
- ・ 最終退館時刻の前倒しにより働き方への意識が変化し、20 時以降の在館者が激減